

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4571700519		
法人名	有限会社とまり商事		
事業所名	グループホームはればれ		
所在地	宮崎県北諸県郡三股町稗田46-13 (電話) 0986-52-2267		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年1月16日	評価確定日	平成21年2月25日

【情報提供票より】 (平成20年12月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成17年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤17人, 非常勤0人, 常勤換算5.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年12月15日現在)

利用者人数	18名	男性 1名	女性 17名
要介護1	1	要介護2	6
要介護3	6	要介護4	3
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 86.5歳	最低 80歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	とまり内科外科胃腸科医院、わかば歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広々とした敷地に建てられた落ち着いた雰囲気の中風のホームである。医療法人を母体に創設され、「利用者を尊重し、自分の能力を十分に発揮し安心して暮らせるように」との理念を基に、管理者や職員は利用者の笑顔を見ながら日々のケアに熱意をもって取り組んでいる。利用者の部屋には部屋の名前と同じ花が飾られ、リビングにも、利用者と職員が季節に応じて作った飾りが置いてあり、利用者と職員が喜びを共有して生活が営まれている様子が至るところに見られる。病院が母体であり、往診にも対応できるので安心した生活ができています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 利用者と同じ食事を摂ることは組織上困難であることから、検食という形で朝食は同じ食事を、昼食は、副食の1品を一人が食するようになった。入浴については、基本的に曜日、時間が決められているが、希望に沿って順番や曜日を変更するなど柔軟に対応できるようにしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が、自己評価及び外部評価の意義を理解し、自己評価の項目ごとにチェックし、反省点を話し合い改善等に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2か月ごとに開催されており、地域代表、家族代表、行政職員、時には消防署、警察署からの出席もあり、行事や外部評価についての報告もしている。また、社会福祉協議会、交番、精神科のケースワーカーの話など、貴重な意見を基にサービス向上に生かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関に御意見箱を設置し、運営推進会議や来訪時、また、電話の時等に家族の意見を聞くようにしている。意見がささいなことであっても、記録し、適切に対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区の自治会に加入し清掃や行事に参加したり、地区のふるさと祭りに利用者の作品を出品し、利用者と共に会場に出かけるなど地域交流に努めている。また、地域住民に「はればれ通信」でホームの行事や健康に関することなどを毎月回覧し、理解を深めていただけるようにしている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	創設時の理念がそのまま現在も使われている。介護の基本的な要素を全て含み実践もされているが、地域密着型としての理念は含まれていない。	○	既に地域に密着した取り組みが行われているが、地域の人や家族にも理解してもらえるように、地域密着型としての理念に見直し、分かりやすく明示されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は毎週行われるミーティングで唱和し、日々のケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の自治会に加入し、清掃や行事に参加している。また、毎月地域住民に「はればれ通信」でホームの行事や健康に関することなどを回覧し理解を深めていただいている。	○	三味線交流などはあるが一部の人であり、地元の人や小学校などの交流も期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が、自己評価及び外部評価の意義を理解し、自己評価の項目ごとにチェックし、反省点を話し合い改善等に取り組んでいる。		

宮崎県三股町 グループホームはればれ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、家族、行政、時には消防署、警察署からの出席もあり、行事報告や外部評価、認知症についてなど、出席者との話し合いを基にサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場から運営推進会議に毎回出席があり、管理者も毎月1回は町の担当者に予約状況や事故報告がある場合など報告している。また、担当者に相談をしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。現在、認知症対応型通所介護事業を申請している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりのウォールポケットに請求書等が入れられ、家族来訪時に、健康状態や暮らしぶり、金銭出納を報告して渡すようにしている。また、職員の異動時は家族にそれぞれあいさつをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱を設置し、運営推進会議や来訪時、また、電話の時等に意見を聞くようにしている。意見、要望には、適切に対応し家族にも結果を報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動がある時は、利用者や家族へ紹介、あいさつをしている。異動は1年に1回、1名程度をユニット間での交代にし影響の無いように抑えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が、内・外部の研修に積極的に参加し、研修資料を基に全職員に報告し、研修の成果を実践・共有できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームから視察に来訪されたり、県南グループホーム連絡協議会に参加して意見交換をしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学をしてもらい、本人が職員や他の利用者となじめるように、時には家族の協力を得ながら徐々に落ち着いた生活ができるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入浴時の洗身やトイレでの立ち上がりなど、本人ができることは見守りを行ない、利用者からは干し大根作りや餅の丸め方、白菜漬け等の生活の知恵を教えてもらいながら、一緒に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートを利用し、家族に書いてもらったり、日ごろ本人との会話の中で聞こえた思いを可能な限り把握し、また、本人の行動を全て記載して、生活のパターンを連絡ノートで共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護者全員での月1回の会議や少人数での週1回のミーティングで、ケアについて意見を出し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	連絡ノートを利用して現状を把握し、期間に応じた介護計画の見直しと、必要時は管理者・ケアマネージャーを通じて家族に連絡し、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族との外出や外泊、リハビリを支援するとともに、他科受診など家族ができない時には支援し、隣接したデイケアでイベントがあれば参加している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診と体調が悪い時には、家族に連絡するとともに主治医に受診し、24時間対応で、利用者・家族に安心してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期については、家族と話し合いはできている人もあるが、現状では併設の病院に入院するか、訪問看護を利用することで対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は理念の、「個人としての尊重とプライバシーを尊重」を念頭におき、利用者のプライバシーや自尊心を考慮した言葉かけや対応の仕方を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個別性を大事にして、理念にあるように利用者の能力を最大限に発揮し、また、維持できるように、日常生活の中で食事、排泄、入浴など見守り支援している。		

宮崎県三股町 グループホームはればれ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人のしこう表を作成し、日替わりでメニューに加えている。一人ひとりのそしゃく力に合わせて、食事形態を食べやすく工夫し、やさしく介助している。後片づけも一緒にしている。	○	職員と一緒に同じ食事をする努力はされているが副食の一部であり、できれば、利用者と同じ味わいを楽しんでほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は基本的に決まっているが、本人の希望で順番や翌日に変更することもある。体調の悪い人は清拭を行い、翌日に入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	美容室や自宅に外出や外泊される人、塗り絵や計算問題、漢字ドリルなどをしたり、歌や月に1回の三味線交流会にも参加するなど、一人ひとりの楽しみ事、気晴らしの支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望や体調に合わせて散歩や電気治療にスタッフの付き浴いで行っている。1棟と2棟の間の中庭に菜園があり、季節に応じた野菜が作られ収穫を楽しんでいる。また、中庭を利用して花見や花火大会をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉・玄関は鍵をかけていない。門扉にはセンサーをつけ、出は入りした人がいればスタッフにわかるようになっている。		

宮崎県三股町 グループホームはればれ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火訓練・避難訓練を年2回実施している。地域の自治会や、2か月に1度の運営推進会議でも、地域の関係者に情報提供を行っている。	○	地域住民に消火訓練等を周知することで、いざという時の手助けをお願いできるのではないだろうか。回覧板に掲載し、参加依頼をする試みもお願いしたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を病院の管理栄養士に見せ、相談している。センター方式にて水分量の把握をしている。食べる量はその人に応じた量を確保し、調理法は刻み食、とろみ食、普通食に分け支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなどの共用の空間は広く明るく、大きなソファにテレビを見ながらゆったりと過ごすことができる。また、季節感を取り入れた花を飾ったり、掲示物も利用者や職員の手作り作品が飾られ、共に楽しんで過ごせる場になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広くて日当たりも良く、明るい。仏壇や、整理ダンス、テレビなどを持参されている方、壁に写真や絵を貼るなど、安心して居心地よく過ごせる工夫をしている。		

※  は、重点項目。